

シンガポール日本人学校における現地校との交流

前シンガポール日本人学校小学部チャンギ校 教諭

群馬県北群馬郡吉岡町立明治小学校 教諭 福島 理恵

キーワード 在外教育施設、シンガポール、現地校との交流、国際交流

シンガポール日本人学校 チャンギ校

The Japanese School Singapore Changi Campus

<https://www.sjs.edu.sg/changi/>

1 はじめに

日頃から関心があった在外教育施設での教育の中で、特に現地校との交流について焦点を当てて紹介したい。交流が行えた2年間のことを例に挙げて、交流を行う過程、実際の交流の様子、交流において大切にしたことに分けて述べたい。

2 現地校との交流を行う過程

(1) 現地校との連絡や調整

現地校との日程調整は、一番難しいと感じた。現地校の休業日や受験期間を除いて日程を決めなければならないことや、3年間コロナ禍で交流をしていなかったことなどが原因である。現地校の教員との連絡では子どもたちにとって貴重な機会なので共通の目的をもって交流してもらいたいと共通理解できるようにし、4年生では「食文化の紹介」、2年生では「学校の案内」というテーマを設けた。

また、双方の教師が互いに相手校に出向いて打ち合わせをし、授業の様子を参観した。4年生は、体育の授業中で、現地校の先生方とドッジボールをして楽しむことができた。

(2) 子どもたちとの話合いや準備

相手の子どもたちが、どんなことを知りたがっているのかを伝えて、子どもたちと一緒に「どんな紹介をしたいのか」「一緒に楽しく遊べそうなものは何か」話し合った。一緒に楽しく遊べそうなものとして、4年生は、「けん玉やこまなどの昔遊び」を、2年生は「じゃんけん列車、猛獣狩り、折り紙」を選んだ。また、4年生は、班ごとに「すし」や「そば」など班ごとに紹介したい日本食を決めて、イラストや紹介文を考えた。2年生では、クラス全体で各教室の英語での言い方を学び1人が1つの部屋を英語で紹介することを目標とした。また、はじめて折り紙をする子でもつくれそうなものを子どもがいくつか選び、それらを一緒に作りながら教えてあげられるように練習をした。

3 現地校との交流について

(1) 4年生：「食文化の紹介」

それまでの学習でも用いてきたGoogle スライドやKahoot!などを活用してクイズを取り入れながら日本の

「食」について班ごとに決めたテーマについて紹介した。

【子どもたちが考えた〇×クイズの例】

- Oshiruko is sweet.
- Japanese people eat Oshiruko at Christmas.

子どもたちは、自分たちと同じ年の子どもが楽しみながら日本食について知ってもらえるようにと、紹介するスライドに「ピンポン〇♪、ブブー×♪」という音を入れたり、自分たちの名前や写真を所々に入れたりして工夫していた。子どもたちは、班の中で自分が担当する紹介を学習した英語を使って一生懸命に練習し、班ごとに事前に見合い、良い点や改善点などを伝えて励まし合った。

現地校の子どもたちは、シンガポールにも、red bean pasteっていうおやつがあるよ!と言って目を丸くしたり、Sushiは食べたことがあって、salmonが大好きなので日本に行って食べてみたいと話したりしていた。

(2) 2年生：「学校の案内」

2年生は、現地校の1年生と一緒に「じゃんけん列車」や「猛獣狩り」で楽しんだ。そして、小グループになって折り紙でそれぞれが作りたいものを作れるように教えてあげていた。最後に、現地校の1年生と手をつないでグループごとに学校の各部屋を案内した。ここは、一番緊張したようだった。

現地校の子どもは、1年生だったので時間が長くて飽きてしまわないか心配だったが、折り紙の時間などは、もっとやりたかったと言っている子どももいた。

【子どもたちの感想から】

- 現地校の子たちは、英語がたくさん話せてすごいなと思った。
- 英語を話す友達ができたから、もっと英語を話せるようになりたい。
- じゃんけん列車って何のこと?と聞かれて驚いた。あそびも文化によって違うんだと思った。
- 緊張したけれど伝えたことを分かってもらえてとても嬉しかった。

4 交流において大切にしたこと

交流において大切にすることは、子どもたちが学んだ英語を実際に使う場面をつくることと、言葉を使えなくても一緒に何かをすることの楽しさを味わってもらうことである。英語が得意な子どもでも、苦手と思っている子どもでも、同じ年の子どもと一緒に遊ぶことを通して困ったり笑ったりしながら互いに心がふれあえる時間を大切にしたい。

5 おわりに

現地校との交流を通して、一緒に何かを体験すること・経験することの大切さを感じた。それが、たとえ上手にできなかったなと思うことがあっても自分で誰かのために友達と協力して何かをつくることは、子どもたちにとって貴重な経験であると考えられる。全部話していることは聞き取れなくても、一緒にじゃんけんをして楽しかったり、けん玉をして相手が成功できるように願ったりする瞬間を大切にしていきたい。